国旗・国歌拒否の要請文

全国の系列学校に送る

カトリック内部委

卒業、入学式控え

日本のカトリックの総本山である日本カトリック司教協議会の内部委員会が、卒業式・入学式で国旗掲揚・国歌斉唱を行わないよう求める内容の文書を全国のカトリック系学校・幼稚園に送っていたことが二十一日までに分かった。文部科学省が「学習指導要領は、宗教的基盤を持った私立学校にも適用される」として完全実施を求めているほか、カトリック関係者からも疑問の声が上がっている。

文書は、日本カトリック司教協議会に設けられている「日本カトリック正義と平和協議会」（会長＝大塚喜直・京都教区司教）が、卒業式を前にした二月二十日付で送った。

「カトリック学校の日の丸・君が代・元号についてのお願い」と題され、カトリック系学校の卒業式・入学式で国旗掲揚・国歌斉唱が行われたり、卒業証書の日付を元号で表記している実態について「懸念しています」と表明。

「『儀礼として当然』という理由からではなく、カトリック学校として福音の光に照らして、日の丸・君が代・元号についての姿勢を見直していただけるよう切にお願いする次第です」と国旗掲揚・国歌斉唱を実施しないよう求めている。

日の丸の意味について「侵略のシンボルとして印象づけられています」、君が代は「天皇を日本の統治者として賛美するものであり、これは日本国憲法が定める主権在民の大原則に反するものです」などとしている。

文書について、大塚会長は「現在の歌詞の君が代や、侵略の謝罪・補償をしないままの日の丸は、私たちの信仰の立場から国旗・国歌として認められない。カトリックの統一見解ではないが、運動の一環として学校に問題提起した」と説明している。

一方、文書を受け取ったカトリック系学校校長の一人は「文書にとらわれず、卒業式では従来通り国旗を掲げた。個人的には、日本の慣習に従うべきだと考えている」と話している。

私立学校での国旗掲揚・国歌斉唱については、文部省が平成九年の卒業式・入学式について調査したことがあり、小学校卒業式での国旗掲揚率が六五・四％、小学校入学式での国歌斉唱率が四二・三％などと、公立に比べて著しく低い結果が出ている。

キリスト教系学校に未実施校が多いためとみられるが、文部科学省教育課程課は「学習指導要領は国・公・私立学校に適用される。すべての私立学校で、指導要領通り国旗掲揚・国歌斉唱を行っていただきたい」としている。

国旗・国歌の実施率100％に

広島県の公立学校

平成十年に文部省（当時）から国旗掲揚・国歌斉唱などの是正指導を受けた広島県の中東部で二十一日、小学校の卒業式が行われた。広島・府中市と新市町の計十六校では中学校の卒業式と同様に三十余年ぶりに国歌斉唱が実施され、県内の公立学校での国旗掲揚・国歌斉唱の実施率が、是正指導三年目にして一〇〇％に達する見込みとなった。